

# IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門（D部門）ニュースレター 2011年11月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

## 研究調査運営委員会の役割と活動推進 Introduction of R&D Steering Committee

電気学会 産業応用部門 研究調査運営委員会委員長  
藤田 光悦（富士電機）  
Kouetsu Fujita (Fuji Electric)

Chairperson of R&D Steering Committee, Industry Applications Society, IEEJ



電気学会会員の皆様に、新しい技術や研究成果、さらには各種関連技術のトレンド、トピックスを提供することは、学会の大きな役割の一つです。それを実行する手段として、本年5月に電子化された論文誌の発行と、各技術委員会の活動があると思われま。現在は、産業応用部門の技術委員会における昨年度の大改革が完了し、新しい体制で更なる活性化が期待されている時期です（改革の詳細は、ニュースレター2010年11月号巻頭言参照）。その中で、研究調査運営委員会は、現在13の技術委員会全体に対し、それらの活動が円滑に、且つ、効率的に行なわれるように、部門内外と調整することを役割としています。今回、このような貴重な紙面をいただきましたので、研究調査運営委員会の活動＝各技術委員会の活動と捉え、各技術委員会共通の活動内容を紹介し、その活動を活発化するための会員の皆様へのお願いなどを記載させていただきます。

### 1. 研究会

研究会は、長い歴史を持ち、全国大会または部門全国大会と一線を画して、特定分野に特化したテーマでの論文を集め、専門家による集中的な質疑応答を伴う研究開発の発表・聴講の場として定着しています。また、論文誌に比べて、投稿から発表までの時間が短いことから、最新技術や研究動向を知る非常に良い機会となっています。このような研究会は、改革後の新しい13の技術委員会においても同様な役割を期待されていますが、今回の改革によって、基礎技術を主体に置く技術委員会と、応用技術を主体に置く技術委員会に分けられ、役割分担が明確になりました。しかし、技術開発とその実用化のためには、基礎と応用がうまく連携することが必須ですので、研究会開催に当たっては、基礎と応用の合同開催を積極的に作り、発表者と聴講者が共に刺激される議論を行ないたいと思います。これから各技術委員会からさまざまな研究会開催に対する企画が出てくると思いますので、会員の皆様には積極的な参加と研究会資料の年間購読をお願い致します。

### 2. 調査専門委員会、協同研究委員会

技術委員会の特徴的な活動として、これらの委員会の設置、運営があります。これらの委員会は、企画した委員長の下に公募による委員を集め、基本的に2年間の中で集中的な活動を行ないませんが、委員会終了後には活動成果を纏めた技術報告の発行を行っており、学術的にも非常に有用な活動です。また、最近の特徴として、サーベイ的な委員会から将来の技術の方向性を探ることを主眼とした委員会が増えつつあります。社会環境が大きく変わる中で将来技術を見通すことは非常に難しいことですが、各委員会での積極的なチャレンジを期待します。改革された技術委員会では、今後も多数の委員会を設置して有益な提言をまとめて行きたいと思いますが、公募される委員への参加もお願いいたします。

### 3. 産業フォーラム

産業フォーラムは、各技術委員会が企画し、最新技術や特に注目を集めている技術に対し、会員向けの講演会を提供するものです。企画されたテーマに対し、第一人者による講演を集中して聴講できるため、特にメーカーの技術者にとって貴重な技術や情報の収集に役立っていると思われま。また、所定の時間内だけでなく、講演終了後にも講師と聴講者の質疑応答の場が自然にできるなど、技術交流の場としても高い評価を得ています。2010年度は、年間で、14件のフォーラムを開催し、平均42名が参加されました。2011年度も引き続き多数のフォーラムを企画していきますが、テーマや講師についての意見やリクエストなどを頂きたいと考えております。

以上、産業応用部門の技術委員会の活動を紹介しましたが、上記以外におきまして、全国大会等でのシンポジウム、見学会や国際ワークショップなどを企画、実行しています。現在は、電気の作り方、運び方、使い方について、日本全体で注目を浴びていますが、産業応用部門では、会員の皆様と一緒に、これらに取り組んでいく所存です。今後も、ご指導、ご鞭撻をお願い致します。